

II-2 全日制課程生産科学科

A 表

教育局 日高

北海道静内農業高等学校 全日制課程

学科 生産科学科

第1学年の  
学級数 1

教科	科目・標準単位数	学年 類型	1 年		2 年		3 年		計	
					園芸コース	馬事コース	園芸コース	馬事コース	園芸コース	馬事コース
国語	現代の国語	2	2					2	2	
	言語文化	2		2	2			2	2	
	国語表現	4				4	4	4	4	
地歴	地理総合	2		2	2			2	2	
	歴史総合	2				2	2	2	2	
公民	公民	2	2					2	2	
	政治・経済	2				2	2	0~2	0~2	
数学	数学Ⅰ	3	3					3	3	
	数学Ⅱ	4		2	2	2	2	4	4	
	数学A	2				2	2	0~2	0~2	
	○数学研究	0~2		0~1	0~1	0~1	0~1	0~2	0~2	
理科	科学と人間生活	2				2	2	2	2	
	化学基礎	2	2					2	2	
	生物基礎	2		2	2			2	2	
保健 体育	体育	7~8	3	3	3	2	2	8	8	
	保健	2	1	1	1			2	2	
芸術	書道Ⅰ	2	2					2	2	
外国語	英語コミュニケーションⅠ	3	3					3	3	
	英語コミュニケーションⅡ	4		2	2	2	2	4	4	
	論理・表現Ⅰ	2				2	2	0~2	0~2	
	○英語研究	0~2		0~1	0~1	0~1	0~1	0~2	0~2	
家庭 理数	家庭総合	4	2	2	2			4	4	
	理数探究	2~5				2	2	0~2	0~2	
農業	農業と環境	2~6	4					4	4	
	課題研究	2~6		2	2	2	2	4	4	
	総合実習	2~8	3	3	3	1	1	7	7	
	農業と情報	2~6	2					2	2	
	作物	2~8		2				2		
	野菜	2~8		3		3		6		
	果樹	2~8				2	2	0~2	0~2	
	草花	2~8		3		3		6		
	農業経営	2~6				2	2	2	2	
	地域資源活用	2~8				2	2	0~2	0~2	
	○馬学	7			4		3		7	
	○馬利用学	7			4		3		7	
○デュアル派遣実習	4				4	4	0~4	0~4		
○産業社会と人間	3	1	1	1	1	1	3	3		
各学科に共通する各教科・科目の計			20	16~18	16~18	14~20	14~20	50~58	50~58	
主として専門学科において開設される各教科・科目の計			9	13	13	11~16	11~16	33~38	33~38	
学校設定教科に関する科目の計			1	1	1	1	1	3	3	
総合的な探究の時間 (総合的な探究の時間)			3~6	0	0	0	0	0	0	
合計			30	30~32	30~32	30~32	30~32	90~94	90~94	
特別 活動	ホームルーム活動		1	1	1	1	1	3	3	

第3節 令和4年度学年別教育課程表  
Ⅲ-1 全日制課程食品科学科

B 表

教育局	日高
-----	----

北海道静内農業高等学校	全日制課程
-------------	-------

学科	食品科学科
----	-------

学級数	第1学年	1
	第2学年	1
	第3学年	1

教科	学年		学年		2 年			3 年	
	科目・標準単位数	類型	科目・標準単位数	類型	乳加工コース	肉加工コース	農産加工コース	畜産食品コース	農産食品コース
国語	現代の国語	2	2	国語総合	4	2	2	2	
	言語文化	2		国語表現	3				3
地理歴史	地理総合	2		世界史A	2	2	2		
公民	公共	2	2	現代社会	2				2
	政治・経済	2		政治・経済	2				2
数学	数学I	3	3	数学I	3	2	2	2	
	数学A	2		数学A	2				2
				○数学研究	0~2	0~1	0~1	0~1	0~1
理科	科学と人間生活	2		科学と人間生活	2				2
	化学基礎	2	2	化学基礎	2	2	2	2	
	生物基礎	2		生物基礎	2				2
				理科課題研究	1				2
保健体育	体育	7~8	3	体育	7~8	2	2	2	3
	保健	2	1	保健	2	1	1	1	
芸術	書道I	2	2	書道I	2				
外国語	英語コミュニケーションI	3	3	コミュニケーション英語基礎	2				
	英語コミュニケーションII	4		コミュニケーション英語I	3	2	2	2	2
				○英語研究	0~2	0~1	0~1	0~1	0~1
家庭	家庭総合	4	2	家庭総合	4	2	2	2	
農業	農業と環境	2~6	4	農業と環境	3~6				
	課題研究	2~6		課題研究	2~6	4	4	4	3
	総合実習	2~8	3	総合実習	4~8	1	1	1	1
	農業と情報	2~6	2	農業情報処理	4~6	2	2	2	4
	作物	2~8		作物	4~8				2
	畜産	2~10		食品製造	4~8	2	2	2	4
	食品製造	2~8		食品化学	4~8	2	2	2	2
	食品化学	2~8		微生物利用	2~6				2
	食品微生物	2~6		食品流通	4~6	2	2	2	2
	食品流通	2~6		○畜産科学	2				2
				○デュアル派遣実習	4~5	0~1	0~1	0~1	4~5
				○商品開発I	2	2	2	2	
			○商品開発II	2				2	
****	○産業社会と人間	3	1						
各学科に共通する各教科・科目の計			20	各学科に共通する各教科・科目の計		15~17	15~17	15~17	14~18
主として専門学科において開設される各教科・科目の計			9	主として専門学科において開設される各教科・科目の計		15~16	15~16	15~16	14~17
学校設定教科に関する科目の計			1	学校設定教科に関する科目の計		0	0	0	0
総合的な探究の時間		3~6	0	総合的な探究の時間		3~6	0	0	0
合計			30	合計		30~33	30~33	30~33	30~33
特別活動	ホームルーム活動		1	特別活動	ホームルーム活動	1	1	1	1

Ⅲ-2 全日制課程生産科学科

B 表

教育局	日高
-----	----

北海道静内農業高等学校	全日制課程
-------------	-------

学科	生産科学科
----	-------

学級数	第1学年	1
	第2学年	1
	第3学年	1

教科	学年		学年		2 年		3 年			
	科目・標準単位数	類型	科目・標準単位数	類型	園芸コース	馬事コース	園芸コース	馬事コース		
国語	現代の国語	2	2	国語総合	4	2	2			
	言語文化	2		国語表現	3			3	3	
地理歴史	地理総合	2		世界史A	2	2	2			
公民	公共	2	2	現代社会	2			2	2	
	政治・経済	2		政治・経済	2			2	2	
数学	数学I	3	3	数学I	3	2	2			
	数学A	2		数学A	2			2	2	
		2		数学研究	0~2	0~1	0~1	0~1	0~1	
理科	科学と人間生活	2		科学と人間生活	2			2	2	
	化学基礎	2	2	化学基礎	2	2	2			
	生物基礎	2		生物基礎	2			2	2	
				理科課題研究	1			2	2	
保健体育	体育	7~8	3	体育	7~8	2	2	3	3	
	保健	2	1	保健	2	1	1			
芸術	書道I	2	2	書道I	2					
外国語	英語コミュニケーションI	3	3	コミュニケーション英語基礎	2					
	英語コミュニケーションII	4		コミュニケーション英語I	3	2	2	2	2	
				英語研究	0~2	0~1	0~1	0~1	0~1	
家庭	家庭総合	4	2	家庭総合	4	2	2			
農業	農業と環境	2~6	4	課題研究	2~6	4	4	3	3	
	課題研究	2~6		総合実習	4~8	1	1	1	1	
	総合実習	2~8	3	農業情報処理	4~6	2	2			
	農業と情報	2~6	2	作物	4~8	2		2	4	
	野菜	2~8		野菜	4~8	2		2		
	果樹	2~8		草花	4~8	2		2	4	
	草花	2~8		農業経済	4~6	2	2	2	2	
	栽培と環境	2~6		○馬学	6		3		3	
	農業経営	2~6		○馬利用学	6		3		3	
	地域資源活用	2~8		○栽培と環境	2			2	2	
	○馬学	7		○デュアル派遣実習	4			4	4	
	****	○産業社会と人間	3	1						
	各学科に共通する各教科・科目の計			20	各学科に共通する各教科・科目の計			15~17	15~17	14~18
主として専門学科において開設される各教科・科目の計			9	主として専門学科において開設される各教科・科目の計			15	15	14~16	14~16
学校設定教科に関する科目の計			1	学校設定教科に関する科目の計			0	0	0	0
総合的な探究の時間		3~6	0	総合的な探究の時間 課題研究		3~6	0	0	0	0
合計			30	合計			30~32	30~32	30~32	30~32
特別活動	ホームルーム活動		1	特別活動	ホームルーム活動		1	1	1	1

# マイスター・ハイスクールだより

～文部科学省「マイスター・ハイスクール事業」～

北海道教育庁学校教育局高校教育課

[第1号]

R3.11.24発行

## 令和3年度 第1回運営委員会を開催

8月17日(火)、オンラインによる第1回運営委員会を開催しました。

開会に当たり、管理機関を代表して北海道教育委員会の倉本博史教育長から「今年度から令和5年度までの3年間、静内農業高校の校長先生をはじめ、地元の自治体や地域の産業界の皆様からのお力添えをいただきながら、本校と地域の農業を中心とした本道産業の発展に向けて、本事業を推進することとしていることから、専門的見地から様々な指導・助言をいただきたい。」と挨拶がありました。

委員会においては、本事業の概要、CEOや産業実務家教員の役割、静内農業高校における取組の説明(下記参照)などが行われ、最後に委員の皆様からマイスター・ハイスクールビジョンの承認をいただきました。



### <事業の概要>

研究指定校	北海道静内農業高等学校
事業名	地域発次世代イノベーター人材の育成～持続可能な日高農業の創り手～
事業の目標	軽種馬、野菜生産や食品加工など、特色ある日高の農産業の実践をとおして、地域産業の課題解決の一助を担うとともに、フロンティアスピリッツのもとに地域と産業の持続的発展をけん引するイノベーターとしてのマイスター育成
高校時代に育成すべき人材像	学校教育目標を踏まえ、地域と一体化した3年間の学びで目指す5つの資質・能力 「思考力」「判断力」「表現力」「実践力」「創造力」
マイスター・ハイスクールビジョン —専門高校における人材育成計画の概要—	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 高度熟練技能者による指導や企業等と連携した商品開発や軽種馬生産など、地域や産業界と連携した実践的・体験的な学習活動の推進及び学校設定科目の設定</li> <li>2 プロジェクト学習を中核とした教科等横断的な地域課題探究型の学習活動の推進</li> <li>3 デュアルシステムを活用した地域の企業等と連携したキャリア教育の充実</li> <li>4 地域や小・中学校と連携した教育活動など、異年齢集団による活動の推進</li> <li>5 オンライン授業や実験施設を利用した高度な実験・実習など大学等との連携・協働</li> <li>6 農業経営のグローバル化等に対応するためのeコマースの活用や英語教育の充実</li> </ol>

### マイスター・ハイスクールCEO

#### 北海道農政部生産振興局・技術支援担当局長

「マイスター・ハイスクールビジョン」を実行する中心人物として、職業人材育成システムを構築し、指定校における取組を統括する役割を担います。

### 産業実務家教員

#### 日本軽種馬協会(JBBA)静内種馬場・獣医師

本校における実験・実習等において、産業界の最先端の技術・知識等の指導を主に担当するとともに、産業界と一体となった教育課程の企画に関して統括する役割を担います。

### 運営委員会(13名)

- 【委員長】 新ひだか町・町長  
 【副委員長】 JAしずない・副組合長  
 【委員】 北海道教育委員会・教育長  
 北海道日高振興局・局長  
 北海道経済連合会・専務理事  
 新ひだか町商工会・会長  
 北海道農政部生産振興局技術普及課  
 ・首席普及指導員  
 日本軽種馬協会静内種馬場・場長  
 国分北海道株式会社・代表取締役社長  
 酪農学園大学・教授  
 株式会社ハッピーアロー・代表取締役  
 北海道静内農業高等学校・校長  
 北海道静内農業高等学校・PTA副会長

### 事業推進委員会(22名)

- 【委員長】 マイスター・ハイスクールCEO  
 【委員】 産業実務家教員  
 北海道教育庁学校教育局高校教育課・指導主事  
 北海道教育庁日高教育局高等学校教育指導班・主査  
 新ひだか町総務部まちづくり推進課・課長  
 日高農業改良普及センター・所長  
 北海道静内保健所・所長  
 北海道経済連合会・食力グループ総務課長  
 日本中央競馬会日高育成牧場・場長  
 日高軽種馬農業協同組合・業務部長  
 国分北海道株式会社・顧問  
 新ひだか町商工会・事務局長  
 北海道静内農業高等学校  
 (校長、教頭、事務長、農場長(食品科学科主任)、  
 教務部長、進路指導部長、生産科学科主任、  
 普通科主任、英語科主任、情報担当)

## <達成目標>

< 定量的目標 >		< 定性的目標 >	
地域に魅力を感じ、愛着をもった生徒の割合	在籍者の80%以上	【自己認識】	自分を客観視する力、自分に対する自信ややり抜く力
地域の課題を発見し、解決に向けて多面的・論理的に考え、行動できた生徒の割合	在籍者の80%以上	【意欲】	物事に対して意欲的に取り組める力
将来、地域のために貢献したいと考え、行動できた生徒の割合	在籍者の80%以上	【忍耐力】	根気強く物事にあたる力
様々な産業人との交流を通し、自身の進路について考えることができた生徒の割合	在籍者の80%以上	【自制心】	自分自身の感情や欲望などをうまくコントロールする力
自身が目指す進路に関連した資格取得を積極的に行った生徒の割合	在籍者の80%以上	【メタ認知 ストラテジー】	自分が今置かれている状況や理解度を把握する力
ITやICT、IoTの役割を理解し、活用することができる生徒の割合	在籍者の80%以上	【社会性】	リーダーシップがとれ、他者とのコミュニケーションがとれる力
卒業後、即就農及び地域の主要産業への就職者の割合	卒業生の50%以上	【回復力と対処能力】	問題が起こった時にすぐに立ち直れる、またそれに対応できる力
卒業後、就農及び地域の技術者を目的とした進学者の割合	卒業生の40%以上	【創造性】	ものを作ったり、工夫したりする力
英語で日常的なコミュニケーションができるようになった人の割合	卒業生の30%以上		
在学中に海外の人と交流した人数	卒業生の50%以上		
将来的な新規参入を目指して進学または雇用就農した人数	3人以上(3年間累計)		



サマーセール（セリ）で引き馬をする生徒



町長を囲んで町の未来について意見交換

## <3カ年の事業計画>

< 1年目 > 発見	< 2年目 > 挑戦	< 3年目 > 進化
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 生徒が主体的に町の現状と将来像、地域産業の現状を把握して考察</li> <li>2 新ひだか町長による地域が求める人材や職業人に係る講話</li> <li>3 職業人材による講話等を踏まえ、生徒が地域の将来について考察</li> <li>4 教育課程の刷新の方向性を検討・改善（次年度、学校設定科目を設定）</li> <li>5 施設見学及び実習など施設・設備の共同利用（産業界、農業関連施設、大学等）</li> <li>6 各種検定試験（資格）に対する理解を深め、受験に挑戦する心身の醸成及び受験</li> <li>7 キャリア・パスポートの活用（指定期間において継続して活用）</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 専門的知識・技能を有する職業人材を活用した講義及び実践的研修</li> <li>2 研修（ICT、IoT）を活用している農業施設及び農業機械を实地視察、研修</li> <li>3 施設見学及び実習など施設・設備の共同利用（産業界、農業関連施設、大学等）</li> <li>4 馬の仕事に必要な技術・資質が分かる達成表『ホースマン・レベルアップ・チャート』の作成</li> <li>5 「うまキッズ探検隊（仮称）」を企画し、子どもに馬の魅力を伝えるイベントを実施</li> <li>6 産業界等と連携した食品に関する新たな商品開発・販売の基礎研究</li> <li>7 遠隔システムを活用した海外の学校との交流</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 専門的知識・技能を有する職業人材を活用した講義及び実践的研修</li> <li>2 研修（ICT、IoT）を活用している農業施設、農業機械を实地視察、研修</li> <li>3 施設見学及び実習など施設・設備の共同利用（産業界、農業関連施設、大学等）</li> <li>4 特別支援学校と連携した「乗馬交流（馬セラピー）」の実証研究</li> <li>5 デュアル派遣実習及び農業インターンシップの実施</li> <li>6 産業界等と連携した食品に関する新たな商品開発・販売、収益活用システム構築</li> <li>7 海外の学校への訪問交流事業</li> </ol>

## <運営委員からの指導・助言>

- 一つの道を極める必要もあると思うが、色々な変革にチャレンジするという意味では、一見異なってるものを結び付けられる柔軟な発想が重要だと思っています。
- 高校生の年代に実践的な知識や技術を知ること、イノベーター的な感覚を養うことができ、地域の農業に大きな還元ができるチャンスだと思います。
- 地域内でいかに魅力のある雇用の場をつくっていけるかが、非常に大事だと思っています。
- 本事業に協力することで、地元を愛していただけの子どもたちが残っていただけなのであれば、就職活動においても会員に宣伝しやすくなると思います。
- 1年目の発見、知ることができなければ、次の挑戦、進化もありえないと思います。ですから、1年目は非常に重要な位置付けだと思っています。
- 本当に大事なのは、事業後も持続的に教育が続けられるよう、体制を築き上げることだと思います。
- 実際採用する立場としての求める人材と輩出していく人材とのギャップを少し埋めていくような観点から、アドバイスをしていきたいと思っています。
- 社会で活躍できるような教育をするための高校と大学の連携の在り方や、地域を巻き込んだ連携の形を協議していく必要があると考えています。
- キャリア教育の観点から、就職がゴールではなく、この高校生活を通じて、どのような資質を育てていくのかサポートしていくのが大事だと思います。
- 多くの取組にプロの方々が、講師として子どもたちに携わっていただけることに、感謝しています。
- この町のことを、いつまでも想ってくれる生徒を育てたい。町を離れても、自分の出身地に愛情をもちながら、人生を育てて欲しいという気持ちがあります。

## 令和3年度 第2回運営委員会を開催

10月22日(金)、研究指定校である静内農業高校を会場に、第2回運営委員会を開催しました。運営委員が初めて一堂に会して、対面による委員会を開催し、学校概要の説明、授業見学や校舎内の実習室、農場の視察を行いました。また、この日は、文部科学省から、審議官など4名が視察に訪れました。

### <当日の流れ>

授業  
見学  
など

#### 学校設定科目「馬学」



オーストラリアの馬生産の現状について、現地在住の講師からオンラインで説明を受けている様子

#### 科目「食品製造」



本校で生産した大豆となっばんを利用した「なっばん黒みそ」の製造実習の様子

#### 学校設定科目「馬利用学」



学校で飼養している馬を活用した乗馬実習の様子。当日は、週末の小学生体験イベントに向けた実習を実施

### 中間事業報告（学校長から）

- ・新型コロナウイルス感染症の影響もあったが、外部講師による授業を一部オンラインに変更して実施し、ほぼ予定どおりの内容で実施できている。
- ・生徒たちは、社会の第一線で活躍する多くの講師から、学校の授業だけでは得ることのできない専門的な知識や考え方を身に付けるとともに、驚きや発見などを体感することで、学習意欲の向上に確実につながっている。
- ・多様な価値観を学び、職業選択の幅を広げるとともに様々なことに挑戦する気持ちが芽生えてきている。
- ・3年生の進路希望において、将来の職業を見据え、進学を視野に入れたり、就職先を幅広く考えるようになったりするなど、生徒の変化が確実にみられている。

### 運営委員会委員長の挨拶



基礎自治体である新ひだか町の  
大野町長が、委員長として協議の進行を担っています。

### 【今年度の主な事業内容】

1年目のテーマは「発見」です。様々な外部講師から最先端の講義を受ける中で、知識や技術を身に付けたり、地域の現状や課題を把握したりするなどの取組を中心に行っています。今年度の事業を通して様々な「発見」をした生徒が、次年度、様々な課題の解決に向けた「挑戦」ができるよう取組を進めています。

学科(コース)	内容	学科(コース)	内容
生産科学科 (馬コース)	・馬産業の現状 ・競走馬の育成及び繁殖 ・馬の獣医療	全学科 (英語科)	・異文化理解 ・姉妹都市の高校との交流の実施 ・農業分野における国際協力
生産科学科 (園芸コース)	・日高農業の現状 ・GAPを活用した生産工程管理 ・新たなアグリビジネスへの取組	全学科 (eコマース)	・企業におけるマーケティング ・ウェブページの作成 ・販売実績の分析
食品科学科	・食品関連産業の実際 ・企業における商品開発 ・地域農産物の加工研究に係る連携	全学科 (講演など)	・地域課題を知る ・農業や地域の魅力の発見、発信 ・新しいアグリビジネス

中間  
事業  
報告

協議

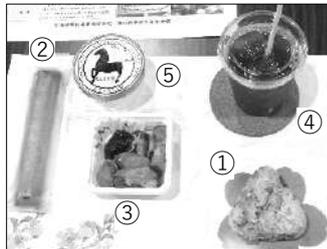
運営委員からの指導・助言

- 本校の強みは、生産から流通、販売までを一貫して生徒に経験させる機会があることだと思います。
- 北海道は、発酵技術について強みがあるため、発酵を研究している研究機関と連携してはどうか。
- ケータリング、観光関係の授業を受けることで、お客様の立場が理解できるようになります。
- スマート農業が徐々に農業現場に入っているため、引き続き、最先端の農業教育に取り組んでほしい。
- 成功と失敗を積み重ねることで、ストレスコントロールやコミュニケーション能力が向上します。
- 高校と生産者、卸売会社が協働した商品開発を検討し、地元に貢献したい。
- 加工品は、管内の農作物を使うなど特色を出してほしいです。
- 現場からの視点で指摘することで、生徒自身が新たな課題を見いだせるよう支援していきたい。
- 2050年のゼロカーボン構想に向けて、農業高校においても、どのような取組が可能か考えてほしいです。

審議官からの指導・助言

- マイスター・ハイスクール事業は、今年度の目玉として進めているもので、新学習指導要領の趣旨を加速化する取組です。
- マイスター・ハイスクール事業は、専門高校が、地域と一体となって地域のこれからの社会を支えるための下地になる取組と考えているため、制度を活用していく過程を記録してほしいです。
- 学校設定科目を含めたカリキュラムの検討や新しい取組へのチャレンジにおいて、議論をして実現させていく過程が学校の財産になります。
- 町に支えられているということは、先生方が地域のことを常に考えながら、子どもたちのことを考えていることの裏返しだと思いますので、引き続き、取組を進めてほしいです。

試食



試食した5品

視察・協議終了後には、食品科学科の生徒たちが、加工実習で製造した5品の試食が行われ、委員からは「着眼点が面白い」、「おいしい」などの率直な感想が聞かれ、大変好評でした。

- 「食彩の秋子ェブオハワ風おにぎり」…①  
(アイデアコンテスト2020大賞)
- 「北海道の夏!とうきびフィナンシェ」…②  
(テレビ局主催オリジナルスイーツレシピコンテスト入賞)
- 「粗挽きウィンナーとベーコンのグリル  
～なんばん黒みそを添えて」…③
- 「ベリーラ(赤しそ)の雫のソーダ割り」…④
- 「バニラアイスクリーム」…⑤

北海道議会文教委員が静内農業高校を視察

本取組は大変注目されているため、11月19日(金)、北海道議会文教委員の12名が、マイスター・ハイスクール事業の取組を視察に訪れました。

あいにくの雨だったため、マイスター・ハイスクール事業の説明の後、「食品製造」や学校設定科目「馬利用学」の授業、実習室、馬事資料室など、校内の視察となりました。



正しい乗馬姿勢を学ぶ授業の様子(学校設定科目「馬利用学」)



本校生産馬の活躍や馬生産に係る教材が展示されている「馬事資料室」での説明の様子

今後の予定

- 令和4年1月26日(水) 中間成果報告会(オンライン)
- 1月28日(金) 第3回運営委員会(オンライン) ※ 今年度の検証・評価を実施
- 3月中 事業報告書の提出

## 令和3年度 第3回運営委員会を開催

1月28日(金)、第3回運営委員会がオンラインで開催しました。委員会では、今年度のマイスター・ハイスクール事業の取組について、実践研究の成果と課題等のまとめ及び検証・評価を行い、専門的見地から指導、助言をいただきました。

### < 1年目の事業計画 > テーマ『発見』

- 1 生徒が主体的に町の現状と将来像、地域産業の現状を把握して考察
- 2 新ひだか町長による地域が求める人材や職業人に係る講話
- 3 職業人材による講話等を踏まえ、生徒が地域の将来について考察
- 4 教育課程の刷新の方向性を検討・改善（次年度、学校設定科目を設定）
- 5 施設見学及び実習など施設・設備の共同利用（産業界、農業関連施設、大学等）
- 6 各種検定試験（資格）に対する理解を深め、受験に挑戦する心身の醸成及び受験
- 7 キャリア・パスポートの活用（指定期間において継続して活用）

## 1 生徒による報告

生徒から、今年度における各学科や全学科での取り組んだ内容と身に付いたことなどについて、報告がありました。

学科(コース)	今年度の取組内容	身に付いたことなど
食品科学科	・食品流通の仕組みと働き、食品表示、商品開発、食品の安全・安心、食品関連産業の実際、食のバリューチェーンに関する講義や食品卸売業者の施設見学など	・消費者を第一に考える大切さを学んだ。 ・栄養士や食品卸売業の実際を知り、進路選択の幅が広がった。 ・子どもたちに食の大切さを伝えたいという想いが芽生えた。
生産科学科(馬コース)	・馬の管理と獣、獣医療、国内外の馬産業、競走馬の繁殖と売却に関する講義や引き馬実習など	・蹄鉄の脱着など、より実践的な実習を行うことができた。 ・馬産業の担い手になりたいという想いが、より強くなった。 ・広い視点で、馬産業を考えるようになった。
生産科学科(園芸コース)	・日高の農業、GAPを活用した生産工程の管理、地域園芸の特性と栽培技術、新たなアグリビジネスへの取組、ICTの活用に関する講義及び演習など	・地域における担い手不足が深刻であることを学んだ。 ・ICTの活用が労働力の削減につながることを学び、ICTへの関心が、より高まった。 ・将来、就農するに当たり、省力化や高付加価値化など、役に立つ内容をたくさん学習することができた。
eコマース、英語など全学科	・通販サイトを通じた情報発信と販売方法、インターネットを活用した新しいアグリビジネスの学習や、アメリカの高校とのアプリを通じた交流、町長の講話など	・特産物として販売されている商品には、それぞれ製造した人たちの思いがあることや、見る人に伝わりやすくすることの大変さを知ることができた。 ・英語を学ぶことの面白さや大切さが理解できるようになった。

## 2 学校長による報告

学校長から、定量的目標及び定性的目標に対するアンケート結果を基に、本事業を通じて、生徒がどのように変容したのかなどについて報告があり、次年度の取組の方向性が示されました。

### 評価方法について

全校生徒127名を対象にアンケートを実施し、〔4：大いにあてはまる(思う)、3：あてはまる(思う)、2：あまりあてはまらない(思わない)、1：まったくあてはまらない(思わない)〕の4つの選択肢から回答を得た。そのうち、〔4：大いにあてはまる(思う)、3：あてはまる(思う)〕を肯定的な評価をした生徒として捉え、その生徒の割合の変化で達成度や習得度を測った。(年度始は6月、年度末は12月に実施)

### ○「定量的目標」に対するアンケート結果

項目	目標値	年度始	年度末	増減
ア 地域に魅力を感じ、愛着をもった生徒の割合	在籍者の80%以上	70.2%	75.5%	+5.3P
イ 地域の課題を発見し、解決に向けて多面的・論理的に考え、行動できた生徒の割合	在籍者の80%以上	51.7%	69.1%	+17.4P
ウ 将来、地域のために貢献したいと考え、行動できた生徒の割合	在籍者の80%以上	36.5%	48.8%	+12.3P
エ 様々な産業界との交流を通じ、自身の進路について考えることができた生徒の割合	在籍者の80%以上	47.2%	73.1%	+25.9P
オ 自身が目指す進路に関連した資格取得を積極的に行った生徒の割合	在籍者の80%以上	76.8%	81.0%	+4.2P
カ ITやICT、IoTの役割を理解し、活用することができる生徒の割合	在籍者の80%以上	75.2%	82.2%	+7.0P
キ 卒業後、即就業及び地域の主要産業への就職者の割合	卒業生の50%以上	55.3% (過去3年平均)	60.0%	+4.7P
ク 卒業後、就業及び地域の技術者を目的とした進学者の割合	卒業生の40%以上	18.4% (過去3年平均)	20.0%	+1.6P
ケ 英語で日常的なコミュニケーションができるようになった人の割合	卒業生の30%以上	-	24.7%	-
コ 在学中に海外の人と交流した人数	卒業生の50%以上	-	2.2%	-
サ 将来的な新規参入を目指して進学または雇用就業した人数	3人以上(3年間累計)	-	0人	-

### < アンケート結果に対する評価 >

- ・全ての項目で、肯定的な評価をした生徒が、増加した。
- ・地域に愛着をもった生徒が、もともと多かったが、事業を通して、より一層、地域のよさを発見し、愛着を感じる生徒が増えた。
- ・これまで、地域が抱える課題に触れる機会が少なかったと推察され、本事業による課題把握及び解決に向けた取組は重要であった。
- ・地域貢献に対する意識は、高学年ほど高くなる傾向があったものの、肯定的な評価が最も低く、今後、より一層地域と密着した活動の充実が必要がある。
- ・産業界と連携し、様々な方と交流することで、進路について具体的に考える機会となり、生徒の意識の変容に大きな影響があった。
- ・資格取得やIT等に対して、肯定的な評価をする生徒の割合が、1年目で目標値を上回った。
- ・英語の必要性を理解し、活用することができた生徒の割合が増えた。
- ・初年度ということもあるが、就業及び地域の技術者を目的とした進学者が、あまり増加していないことから改善すべきと考えている。

○ 「定性的目標」に対するアンケート結果

	項目	年度始	年度末	増減
【自己認識】	自分を客観視する力、自分に対する自信ややり抜く力	67.6%	80.8%	+ 13.3P
【意欲】	物事に対して意欲的に取り組める力	66.6%	81.7%	+ 15.1P
【忍耐】	根気強く物事にあたる力	63.5%	75.1%	+ 11.6P
【自制心】	自分自身の感情や欲望などをうまくコントロールする力	63.9%	76.5%	+ 12.6P
【メタ認知ストラテジー】	自分が今置かれている状況や理解度を把握する力	65.2%	79.0%	+ 13.8P
【社会性】	リーダーシップがとれ、他者とのコミュニケーションがとれる力	60.8%	72.3%	+ 11.4P
【回復力と対処能力】	問題が起こった時にすぐに立ち直れる、またそれに対応できる力	64.5%	72.1%	+ 7.6P
【創造性】	ものを作ったり、工夫したりする力	60.8%	72.3%	+ 11.4P

< アンケート結果に対する評価 >

- ・全ての項目で、バランスよく増加した。
- ・「意欲」が最も増加したが、多くの専門的職業人から、より専門的な内容について講義を受けられた結果だと評価している。

○ 次年度の取組の方向性（重点事項）

定量的目標の「将来、地域のために貢献したいと考え、行動できた生徒の割合」の項目が大きく目標に届いていないため、「デュアル派遣実習」と「プロジェクト学習」の改善と充実を図る。

デュアル派遣実習	プロジェクト学習
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイダンス機能の充実</li> <li>・目標設定や振り返りなどの指導の充実</li> <li>・食品製造業の協力企業の確保</li> <li>・長期休業中の実施など実施形態の改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産業現場と連携した取組課題の設定</li> <li>・研究計画における専門家からの指導・助言</li> <li>・実践における専門家からの指導・助言</li> </ul>



### 3 運営委員による検証・評価

生徒及び校長先生からの報告を受けて、各委員から今年度の取組に対する評価及び今後の課題について、検証・評価が行われました。

#### 今年度の取組に対する評価

- 1年目としては、大変よい環境で学習が行われ、講師による授業には、大人も学びたい内容が、多くみられた。
- 地域の魅力の再発見や地域が抱えている課題 様々な職種からの学びなどが、将来につながる学習となっていた。
- 各項目の良好な評価結果から、充実した取組がなされ、1年目の「発見」というテーマが、十分達成できている。
- 事業開始から、1年足らずであるにもかかわらず、意識の変化がこのように如実に表れたことに、驚いている。

#### 今後の課題

- 「地域で職に就きたい」「地域に残りたい」と生徒が思える環境作りを、産業界や行政が行っていく必要がある。
- 「地域」の捉え方については、1市町村ではなく、日高管内に広げて考えるべきである。
- 今後の事業の取組について、学校としてはどういふところを伸ばしたいのか、どういふところを目標にしたいのかを明確にし、講師と確認しながら実施する必要がある。
- 指定事業が終了した後の事業の継続性について、検討が必要である。
- 自己表現が苦手な生徒や、個々の生徒の悩みなどにも目を向けながら、取組を進めてほしい。
- 専門高校では、産業界と連携した授業が一般的であることを、成果として示すことが必要ではないか。
- 定性的な評価について、自由記述やインタビューなどにより、要因を把握しないと、次の取組につなげられないのではないか。

## 中間成果報告会で静内農業高校が報告

1月26日(水)、今年度、マイスター・ハイスクール事業の採択を受けた12校が自校の取組状況を報告し、質疑応答を行う中間成果報告会(主催:文部科学省)が、オンラインで開催されました。

当日は、3グループに分かれ、各学校からの報告の後、質疑応答や企画評価委員による講評が行われました。

#### 静内農業高校への講評

- 地域の農業人材を育成している、よい取組であり、CEOの人材配置がよい。育成する資質は明確になっているが、評価する仕組みが十分でないことが課題であると感じる。
- 地域の政策の方向に沿って、コミットして取り組むことは大事である。産業界から、もう少しコミットする人材がいればと思う。非常に期待している。
- 地域と結び付き、テレビ放映されるなど、応援する人がたくさんいることは、とても素晴らしい。引き続き、地域の人を巻き込んで、よい取組にしてほしい。

#### 総評

- 本事業は、他のモデル事業と異なり、PDCAを意識している。検証及び評価を大事にして、改善につなげていくのが大きな特徴である。本事業の取組により、産学官の連携は、とても難しいことを意識し、実現に向けてどう取り組むのが大切である。